

平成 28 年度第 1 回羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議録

日時 平成 28 年 8 月 31 日（水）19：00～21：15

場所 羽咋市役所 401 会議室

出席者

委員長：岩城 和男（羽咋市社会福祉協議会会長）
副委員長：柳澤 豊志（羽咋市町会長連合会会長）
委員：若城 はる美（羽咋市観光協会協会理事）
澤田 英三郎（はくい農業協同組合総務部長）
西 孝志（七尾公共職業安定所羽咋出張所所長）
前田 美佳（羽咋市教育委員会教育委員）
牧野 利明（羽咋市校長会：邑知中学校校長）
大屋 英樹（日本政策金融公庫金沢支店支店長）
中村 史人（羽咋市銀行会：のと共栄信用金庫ふるさと支援室次長）
濱邊 國紀（羽咋地域ライフ・サポートセンター羽咋幹事）
小塚 泉（株式会社北陸中日新聞羽咋市局局長）
柳澤 豊志（羽咋市町会長連合会会長）
酒井 恵美（羽咋市青年団協議会会長）
岩城 和男（羽咋市社会福祉協議会会長）
河島 佳江（羽咋市各種助成団体連絡協議会会長）
轟 千栄子（NPO 法人わくわくネットはくい会長）
新田 聡（公募委員：一般）
大門 留美（公募委員：一般）
北山 怜奈（公募委員：学生）
欠席委員：松永 義民（羽咋市商工会理事）
大林 浩（創和テキスタイル株式会社代表取締役社長）
波木 哲次郎（羽咋郵便局：邑知郵便局長）
稲垣 賢一（株式会社北國新聞社羽咋総局長）
オブザーバー：西 徳明（石川県中能登総合事務所所長）
アドバイザー：高山 純一（国立大学法人金沢大学大学院教授）
市側出席者：備後 克則（総務部長）
中田 裕之（市民福祉部長）
八野田正光（産業建設部長）
井上 和彦（教育委員会次長）
今井 史也（産業建設部次長）
若狭 義高（企画財政課長）

和田 正美 (地域包括ケア推進室室長)
金山 幸富 (文化財室長)
西井 健一 (秘書室長)
清水 吉朗 (総務課長補佐)
吉田 浩一 (企画財政課長補佐)
政氏 祥代 (秘書室長補佐)
山本 裕一 (農林水産課長補佐)
片山みゆき (地域包括ケア推進室長補佐)
松田 義人 (商工観光課主幹)
崎田 智之 (農林水産課係長)
廣島 和哉 (農林水産課係長)
木村 繁成 (総務課係長)
安達 崇 (がんばるはくい創生推進室係長)
赤井ゆかり (健康福祉課専門員)
中島 一明 (羽咋市まち・ひと・しごと創生本部事務局主幹)
井上花穂子 (羽咋市まち・ひと・しごと創生本部事務局主事)

会議傍聴者 : あり

審議事項

1. 開会
2. 委員長挨拶
(略)
3. 市長挨拶

お仕事でお疲れの中、本会議にご出席賜り、心から御礼申し上げます。また、総合戦略の推進に日ごろから暖かいご支援とご協力を賜っていることを、この場をお借りして、改めて深甚なる敬意、感謝を申し上げます次第でございます。

石川県中能登総合事務所の西様、金沢大学教授の高山教授にもご出席賜りました。常々、専門的分野から、多角的な視点でご助言を賜っており、この場をお借りして、改めて感謝申し上げます。

さて、本市の「がんばる羽咋創生総合戦略」に関しましては、昨年度は計画作り、昨年度の年末から今年は、いよいよ「創生実行元年」だということで、これは羽咋市だけではなく全国の1700を超える地方自治体が、これをメインに全力を尽くして努力しています。いよいよ本格的な人口減少社会にどう向き合うのか、どう対処するのか、実際の力が国から求められてくることとなります。

昨年から今年にかけて、石破地方創生大臣にも羽咋市にお越しいただき、ま

た、経済同友会の方にもお越しいただきました。さらに、愛媛県の高校生や岩手県の中学生も当市に研修視察に訪れました。

私どもの総合戦略はほかの地と比べ、一步も二歩も前進しているということは国にも県にもある程度認識していただいていると思っています。今日まで国からの交付金は2億 5,400 万円いただいている状況であります。今後、私どもは総合戦略の具体的な進行をしっかりとやっていくべきであると考えています。

今年は地域資源を活用した雇用の創出、地域の魅力を活かした移住・定住の促進、地域包括ケアの推進策として取り組む介護予防、妙成寺を中心とする地域の文化財の価値の調査・活用、地域の活性化の4つを重点施策として掲げています。

この課題につきまして、本日は委員の皆様方にそれぞれの施策に対する効果検証と総合評価を行っていただきたいということでご参加を賜りました。これからも、当市の「がんばる羽咋創生総合戦略」について、暖かいご支援とご協力をさらにお願ひ申し上げるとともに、今日までいろいろとご支援を賜ったことを改めて感謝申し上げます。お疲れのところ大変でございしますが、どうか今日の会議につきましても、皆様の暖かいご支援とご協力を改めてお願ひ申し上げ、私の挨拶としたいと思います。皆様、本日は本当にありがとうございます。

4. がんばる羽咋創生総合戦略の効果・検証について

(1) 平成 28 年度がんばる羽咋創生総合戦略の取り組みについて

昨年5月に皆さんに参集いただき、10月に人口ビジョン、総合戦略を策定しました。その中では4回の会合、ときに内閣府の伊藤審議官に来ていただきすこやかセンターでシンポジウムも開くことができました。スタートから、国に恵まれており、石川県からもいろいろなご支援をいただきながら総合戦略はスタートしました。

そうした中でよく言われたのは、「羽咋市は手作りでよくがんばったね」という言葉です。全国の自治体の中にはコンサルに委託しているところもあるようですが、我々は手作りでやったんだ、だから手作りで実行できる、このような期待を背負ってスタートしたことを感じています。

国の地方創生の事業は平成26年の補正予算から始まりました。これが一回戦です。それから平成27年度が二回戦、今年の平成28年度の事業予算が三回戦です。年々、各自治体の額は少なくなっております。羽咋市はおかげさまで2億 5,400 万円ほどの交付金を獲得し、様々な創生事業展開をさせていただいているところです。

たとえば、地域経済分析システム（RESAS）を活用したいろんな政策を国が自治体に臨んでいますが、なかなか進展していません。ならばやる気のあるとこ

ろに国が出向いて RESAS の活用を促して、地方創生の重石にしようとしています。この、国が支援を行う自治体の中に全国の自治体から羽咋市も選ばれ、RESAS の活用を国と一緒に考えていくという企画が、今月に計画されているところであります。

具体的にどういうことが目に見えて動いてきたのかを少しご紹介申し上げて、今回の各グループ評価のひとつの議題になればと思います。

一つはまず、「しごと」づくりです。仕事を作って、人の流れを呼び起こして、まちに活気を呼び戻す、これが羽咋市の総合戦略でございます。仕事づくりの核となるのは、道の駅です。道の駅は現在千里浜に造成が進んでいますが、ここに 14 人の雇用が生まれることとしています。

また、道の駅に置く特産品として、農業の 6 次産業化が総合戦略で動いています。その中で、自然栽培という農業に取り組む方が去年は 11 人、今年は 19 人に増えて、作付面積も去年の 3.6ha から今年は 22ha に増えて、米についてはこの秋 30 トンの自然栽培米が収穫されることになっております。この計画の実践例のひとつであります。

ジビエについては、地域おこし協力隊が 2 名市外から移住し、特産品化に取り組んでいます。今年は 75 頭のイノシシが運び込まれており、このうち羽咋市のイノシシは 3 分の 1 で、その他のイノシシは、宝達志水町、中能登町、志賀町、七尾市から運び込まれており、広域的な効果を与えている所でございます。

次に「ひと」でございますが、ワンストップ移住窓口を常設し 2 人の職員を配置しています。今年度はこれまでに 14 件の相談があり、20 名の方が移住し羽咋市に住んでおられます。現在、5 件の相談を受けており、13 名の方が年度内の移住を考えておられます。

最後に「まち」でございます。今後どうしても高齢化は進みます。この中で、健康寿命をしっかり伸ばし、住み慣れた地域で住んでもらえるように、これが地域包括ケアシステムというもので、この準備態勢が進んでいます。町会、老人会、いろんな実践者から生活支援協議体を作り、日々準備を進めております。

それぞれの総合戦略の中の施策はいろんな形で種から芽に移っております。今回、それぞれの 4 つの基本目標の中で皆様に検証していただきます。全部で 139 の施策がありますが、その中で今回は 23 施策をピックアップして、ご検討いただきます。よろしくご審議のほどお願い申し上げます。

(2) 事務局説明

別紙 1～5 参照

(3) 意見交換・まとめ (80 分間)

「別紙 6」各グループ（各部会）における質疑及び意見交換等の記録 参照

(4) 報告・発表

「別紙 7」第 1 回部会報告・発表（まとめ） 参照

※認定※ 各部会からの報告・発表とおり認定。

【委員長】各部会から、重点施策に対する効果検証及び評価について報告がありました。

ここで、お諮りいたします。各部会からの報告・発表の結果のとおり、本市創生戦略会議の効果検証及び評価結果として認定してよろしいでしょうか。

【各委員】(会場から「異議なし」の声あり)

【委員長】異議なしとの声がありましたので、各部会からの報告のとおり重点施策の評価の結果として認定いたします。

それでは、ここで、オブザーバーである中能登総合事務所の西所長並びにアドバイザーである金沢大学高山教授から、総合戦略に係る効果検証、評価等についての講評をいただきたいと存じます。宜しくお願いします。

5. 講評

【オブザーバー：石川県中能登総合事務所 西徳明 所長】

(西所長) 事務局にいくつか辛口の質問をしたいと思います。

まず確認ですが、国勢調査の結果は各ビジョンに反映されているのでしょうか？基本となるところや KPI に変更が出ていないかの確認です。

(事務局) 昨年度実施された国勢調査の速報値としては、国の予測よりも人口減少を食い止めたような結果が出ています。この調子であれば 1 万 3000 人も可能であるというラインに乗ったという推計が出ています。これまでの結果がそうであって、これからもそうであるとは限らないということは十分承知しております。今回の資料については国勢調査の結果は反映しておりません。今後反映させていただきます。

(西所長) 厳しめの KPI であればそれはそれでよいと思います。この重点施策 23

点はどのような考えで選ばれたのでしょうか？資料を見てみますと、事務局評価◎の施策が多いように思われます。せつかく委員の方に集まって頂いたなら○や△の評価の施策をご協議いただいたほうが、より充実したものになるのでは。

（事務局）総合戦略の重点施策 23 施策は、今回抽出したものではなく、昨年 10 月に策定した際に皆様にお諮りして重点 23 施策を決めさせていただいています。内閣府審議官の伊藤さんからご指摘いただいたのですが、138 ある施策の中で、羽咋市は、どれを重点的に進めるのかを総合戦略の中で明示し、皆さんに諮っていくことが必要であるというご助言を受け、策定時に選ばせていただきました。審議を深めてもらうという点にかけては、内部審査で△や×となる施策を重点的に審議していただくという方法もよいと考えています。今後、皆様方にはこの指摘も踏まえ、残りの施策についてご検証いただきたくこともと考えております。

（西所長）今回この計画については、常に見直していくということの中で、道の駅のと千里浜の整備については、ただいま建設中で評価できないということになっていますが、KPI の設定として、5 年間の中で初年度と違う規定をいれるということも考えた方がよいのかなと思っています。

皆様が熱心にご協議していただいている姿を見て非常に感心いたしました。これからも委員として厳しめで進行状況を検証していただければと思います。

【アドバイザー：国立大学法人金沢大学大学院 高山純一 教授】

皆様慎重に議論されていて、羽咋市は心配いらぬのではないかなという印象を受けました。

各グループの総合評価では◎が 12 個、○が 8 個、△が 3 個となっています。事業全体はうまく進んでいるという評価が出ています。ただし、ある程度予算を使って行っている公共の事業なので、一般的にいうと費用対効果を費用原分析という方法で行く事が普通のやり方です。この KPI という指標は直接的な指標をわかりやすく、目に見える形で掲げているので、すべてを費用対効果、金額として算定するのはふさわしくないかもしれませんが、例えば、一人移住者が増えれば、税収につながったり、国からの交付金の増加につながったりという、間接的には金額ベースで考えることもできます。そのように置き換えてみて、投資した金額がちゃんと回収できているのかどうかということの評価しておくことが本当は大事だと思います。ただし、投資した予算の成果が今年度そのまま出るものばかりではありません。波及効果として、来年あるいは再来年さらに言えば今後ずっと効果が続くものもあれば一年だけで終わるものも中にはあります。

今回の場合は 5 年という期間の中で、全体を評価します。今年是一年目の評価

をしていますが、実際には5年トータルでどうなるかを最終的に評価するのが本来の事業評価のやり方かなと思います。非常に難しいのは、直接効果をきちっと出す、さらにそれが地域の中でどう循環、波及効果として及ぶのか、例えば産業連関分析的な分析をすると、ある程度は見えてきます。少し難しいが、そうすれば直接的な効果プラス波及的効果トータルとして、これだけの事業を投下したがさらにそれ以上の効果がありましたという評価の仕方でもできます。

例えば、基本目標1の雇用創出については、販売実績がどれだけ伸びる可能性があるのか、自然栽培の従事者は増えたが、それによって販売実績がどれくらいあるのか、さらにどのような波及効果があるのか、きちっと試算出来れば、この事業の評価がつながると思います。

基本目標3の結婚・出産・子育て支援は、直接的な効果はお金では測れません、でもいろんな意味で、一人生まれれば、人口の増加につながり、将来的には働いてくれる可能性があります。そういうところまで含めて試算出来れば、今ある効果を2倍にも3倍にもその効果を算定できるのではないかと思います。来年再来年にはそういう取り組みも必要かもしれません。

6. その他事務局からの連絡事項

(略)

7. 閉会